

0-ドライ マーキュリー 黄鉛・クロムフリー 製品使用説明書

日本ライナー株式会社

- 規格
- ・ JIS K 5665 1種A 適合品
- 系統
- ・ 常温用 特殊アクリルエマルジョン水性路面標示用塗料
- 特徴
- ・ 重金属である鉛およびクロム化合物を含まない環境配慮型商品です。
 - ・ 本塗料は非危険物のため、保管および保管場所設備や輸送等に制約を受けません。
 - ・ 揮発性有機溶剤を殆ど含んでおらず、環境にやさしい塗料です。

□塗料性状

| | |
|---------------------------|------|
| 色相 | 黄色 |
| 光沢 | つや消し |
| 密度g/cm ³ (23℃) | 1.5 |
| 加熱残分 (%) | 74 |
| 危険物表示 | 該当せず |
| 有機溶剤区分 | 該当せず |
| 有害物表示 | 該当せず |

※性能数字は、実績に基づいた代表値です。

- 荷姿
- ・ 金属製ドラム 160ℓ
 - ・ 石油缶 14ℓ

□塗装方法

使用上の注意

- ・ 取扱い時は、保護手袋、保護メガネ、保護靴、前掛け等を必ず着用してください。
- ・ 使用前に十分に混合、攪拌してください。
- ・ 本塗料は常温仕様で、原則として、加熱する必要はありませんので、熱交換機への回路は閉鎖して下さい。尚、外気が低温(5～10℃)の時は、塗料を常温(20℃)前後に温めると流動性が良くなり、良好なスプレーパターンが得られます。
- ・ 過剰な厚塗りは乾燥を遅らせ、また、薄塗りは「透け」や耐久性が劣る原因になりますので、適正量で塗装して下さい。
- ・ 下記の環境条件での施工は控えて下さい。
 - ① 気温が5℃以下の場合
 - ② 相対湿度が85%以上の場合
 - ③ 施工後2時間以内に降雨が予想される場合
 - ④ 降雨などで路面が濡れている場合
部分的にわずかに濡れている路面であればバーナー等で十分に乾燥させて下さい。
 - ⑤ 凍結路面や凍結防止剤などの残存が認められる場合
 - ⑥ 強風や粉塵が多く、スプレーパターンが安定しない場合
- ・ マーカー車を洗浄した直後は、洗浄水が塗料に混入し、スプレーダストが出やすくなります。この場合、ペイントガンからペーサードラムへの戻り回路のコックを閉じてから、約60%程の塗料をペイントガンから吐出し抜き取って下さい。
- ・ ペーサータンク内の塗料の表面に皮張りの発生を防止するため、塗料の液面に薄い水膜ができる程度の少量の水を霧吹き等で噴霧して下さい。

□下地調整

- ・ アスファルト面： 砂塵、ゴミ、油分等を除去し清浄な面にして下さい。
- ・ コンクリート面： 打設直後は養生期間をおき、ニッペ浸透性シーラーを0.15kg/m²/回塗布し、十分に乾燥させてから塗装して下さい。
- ・ 旧塗膜面： 旧塗膜上を清浄な面にして下さい。旧塗膜の劣化が著しい場合は、旧塗膜を除去して下さい。

ロードライン マーキュリー 黄鉛・クロムフリー 製品使用説明書

日本ライナー株式会社

- マーカーの設定
- 標準塗布量: 0.4 ℓ/m²
 - 設定施工速度: 6 km/hr (20 cm巾) ・ 8 km/hr (15 cm巾)
 - 設定条件:
 - 《一次ポンプ》エア調整圧: 0.2~0.4MPa(ホップ) 5:1
 - 《二次ポンプ》エア調整圧: 0.3~0.5MPa(ホップ) 20:1
 - 《チップNo.》使用例: 東洋内燃機製 100200 (20cm幅用)
100150 (15cm幅用)
- * 二次ポンプのエア調整圧を0.3~0.5MPaの範囲で吐出量を測定し、エア調整圧を決定して下さい。
キャリブレーション実施と同時に、スプレーパターンの確認をして下さい。
- * 塗布量及び施工速度、設定条件は標準的数値です。舗装種別や路面形状、素地状態、塗装機能力、ポンプ型式、ノズルチップNo、加熱温度、気象条件により、増減幅を生じます。
- 保管上の注意事項
- 0℃以下での保管は、避けて下さい。
 - 直射日光下や雨ざらし、缶蓋に雨水が溜まったまま保管しないで下さい。
 - 開缶後の注意事項
水性塗料は開缶して放置すると皮張りが発生しやすく、乾いたものはもう水には溶けません。
そのため、使用後は塗料表面に薄い水膜ができる程度の少量の水を霧吹き等で噴霧し、塗料が外気に触れないように必ず密閉状態にして下さい。
<密閉状態>
ドラム缶の場合: できる限り空気が少ない状態で内袋の上部の取出し口を閉じ、ドラムの蓋を被せてドラムバンドをしっかりと締めてください。
石油缶の場合: 缶内の塗料表面に薄い水膜ができる程度の少量の水を、霧吹き等で噴霧し缶の蓋をしっかりと締めて下さい。
- 塗装機の手入れ
- ラインマーカー車の溶剤系塗料から水性塗料へ、水性塗料から溶剤系塗料への切り替え、洗浄作業は「マーカー車洗浄作業手順」を必ず参照してから実行して下さい。
 - 溶剤系塗料と水性塗料とは相溶しませんので、切り替え時には十分に注意して下さい。
 - 連日施工の場合、または、次の施工が1週間以内にある場合
 - ①施工終了後、配管内の圧力を抜いてから、ストレーナ、ガン、チップの清掃を行って下さい。
乾いてしまった物は、シンナーで洗浄後、よく拭いて乾かしてから取り付けて下さい。
 - ②ストレーナ清掃後、取り付けた事を確認してから、数分間循環を行って下さい。
 - ③循環後、1次ポンプの吸込みバルブとペーサータンクへの戻りのバルブを閉めて下さい。
 - ④皮張り防止用に、ペーサータンク内の塗料表面に薄い水膜ができる程度に少量の水を霧吹きして下さい。
 - *ハンドマーカーを1日以上使用しない場合は、ペイント回路を完全に洗浄してください。
 - 次の施工が1週間以後の場合
次の施工前にペーサータンク内に皮張りがある場合は取り除いて下さい。
閉めたバルブを開き、数分間ペイント循環した後、チップを取りつけ試し吹きして下さい。
- 廃棄上の注意
- 産業廃棄物の分類
 - ① 洗浄で使用した水 [廃油]
 - ② 残塗料および洗浄シンナー [特別管理、廃油]
 - ③ ドラム缶の内袋 [廃プラスチック類]
 - ④ 石油缶、ドラム缶 [金属くず]
 - ⑤ ファイバードラムの金属バンド部材 [金属くず]
 - ⑥ ファイバードラム本体、段ボール箱 [紙くず、リサイクル紙]
 - 洗浄による廃水は、凝固処理剤を使用し、水分と残渣物に分離できます。処理後の残渣物は産業廃棄物〔廃プラスチック類〕として処理して下さい。
 - 塗料や洗浄シンナー等が直接、地面・河川・排水溝に流れ込まないように注意して下さい。
 - 不法投棄や不適正処理を行った場合、厳しく罰せられます。
生活環境保全を考慮し、適切な対応をお願いします。
- 注意事項
- 直射日光を受けたり雨ざらしになる場所を避け、屋内に保管してください。
 - 作業前にラベルに記載する「安全衛生上の注意事項」をご参照ください。
 - 製品に何らかの異常がある場合は、直ちにラベル等に記載する当社の連絡先までご連絡をお願い致します。
 - 急きょ法規制等の改正がある場合、事前にお知らせができずに記載内容を変更、改正する事があります。
 - 製品の成分情報や緊急時の措置などの明細な内容は「SDS」をご参照ください。